

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

1. 学力について

近江八幡市では、学習指導要領に則り「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」をまとめて「生きる力」とし、この「生きる力」は、学校、保護者、地域が一体となって取り組むことによって形成されていくと考えています。「全国学力・学習状況調査」は、調査のねらいから、学校をはじめとする子どもたちを取り巻く学習環境、生活環境を改善していく上でたいへん有効であります。しかし、これですべての学力が測れるのではなく、子どもたちが持つべき学力の一部を測るものととらえています。

2. ねらい

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況等の改善に役立てます。

3. 調査の特徴

・教科に関する調査（国語、算数・数学）

*理科については、A問題とB問題を一体的に問う。

A 問題

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

B 問題

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関わる調査

実施 状況

実施日：平成28年4月19日（火）

実施学年：市内公立小中学校（小学校12校、中学校4校）の
小学校6年生、中学校3年生の全児童生徒

*市内私立小中学校も実施しましたが、本公表には含まれていません。

4. 教科の結果

平成28年度の教科に関する調査結果

一 小学校調査 一

【国語A】

	全国（公立）	滋賀県（公立）
平均正答数【問】	10.9	10.9
平均正答率【%】	72.9	72.6

【国語B】

	全国（公立）	滋賀県（公立）
平均正答数【問】	5.8	5.6
平均正答率【%】	57.8	56.5

【算数A】

	全国（公立）	滋賀県（公立）
平均正答数【問】	12.4	12.1
平均正答率【%】	77.6	75.8

【算数B】

	全国（公立）	滋賀県（公立）
平均正答数【問】	6.1	6.0
平均正答率【%】	47.2	45.8

〔成果〕

- 平均正答数について、4種の調査における全国・県との差は、0.1～0.4問で、昨年度と比較し、改善している。（昨年度は、0.2～1.5問）
- 平均正答率について、4種の調査における全国・県との差は、0.7～3.3%で、昨年度と比較し、改善している。（昨年度は、1.8～6.4%）
- 特に、国語Aにおいて、全国との差は、0.1問、1.0%でほぼ同等である。
(昨年度は、0.4問、3.2%)

〔課題〕

- 国語、算数ともに、知識を問うA問題より、活用を問うB問題に大きな差が見られる。（平均正答率における全国との差で、A問題は1.0～2.7%に対して、B問題は国語、算数ともに3.3%の差）

— 中学校調査 —

【国語A】

	全国（公立）	滋賀県（公立）
平均正答数【問】	25.0	24.4
平均正答率[%]	75.6	74.0

【国語B】

	全国（公立）	滋賀県（公立）
平均正答数【問】	6.0	5.7
平均正答率[%]	66.5	63.3

【数学A】

	全国（公立）	滋賀県（公立）
平均正答数【問】	22.4	22.1
平均正答率[%]	62.2	61.3

【数学B】

	全国（公立）	滋賀県（公立）
平均正答数【問】	6.6	6.3
平均正答率[%]	44.1	42.3

〔成果〕

- 平均正答数について、4種の調査における全国・県との差は、0. 1～1. 1問で、昨年度と比較し、改善している。（昨年度は、0. 2～2. 1問）
- 平均正答率について、4種の調査における全国・県との差は、0. 9～4. 5%で、昨年度と比較し、改善している。（昨年度は、3. 2～7. 2%）

〔課題〕

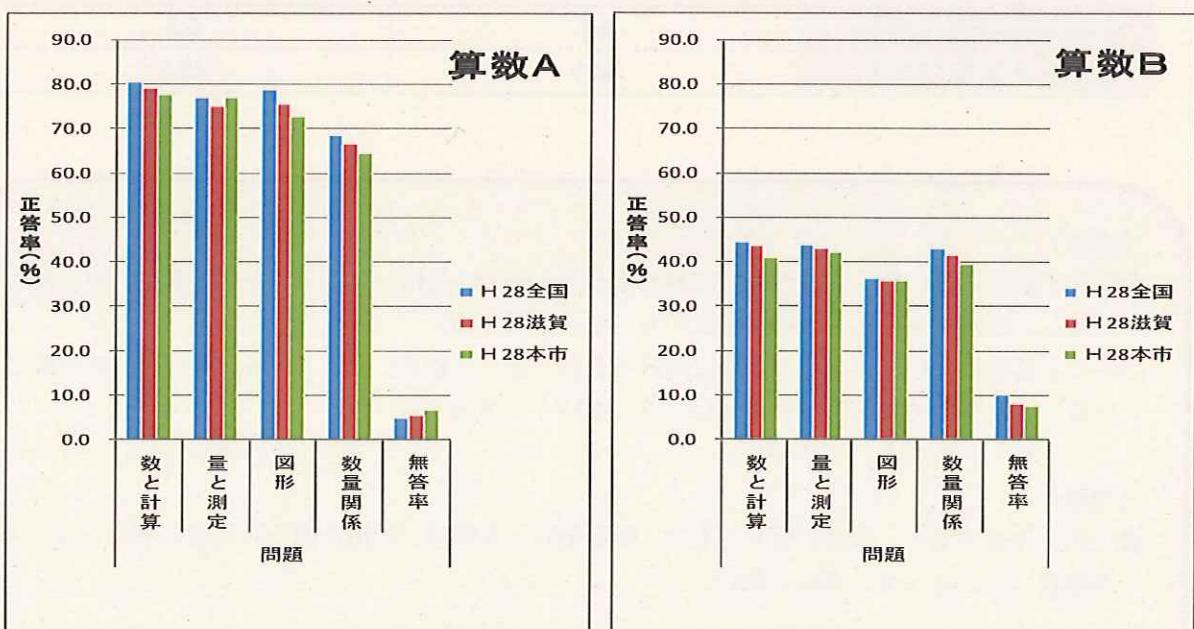
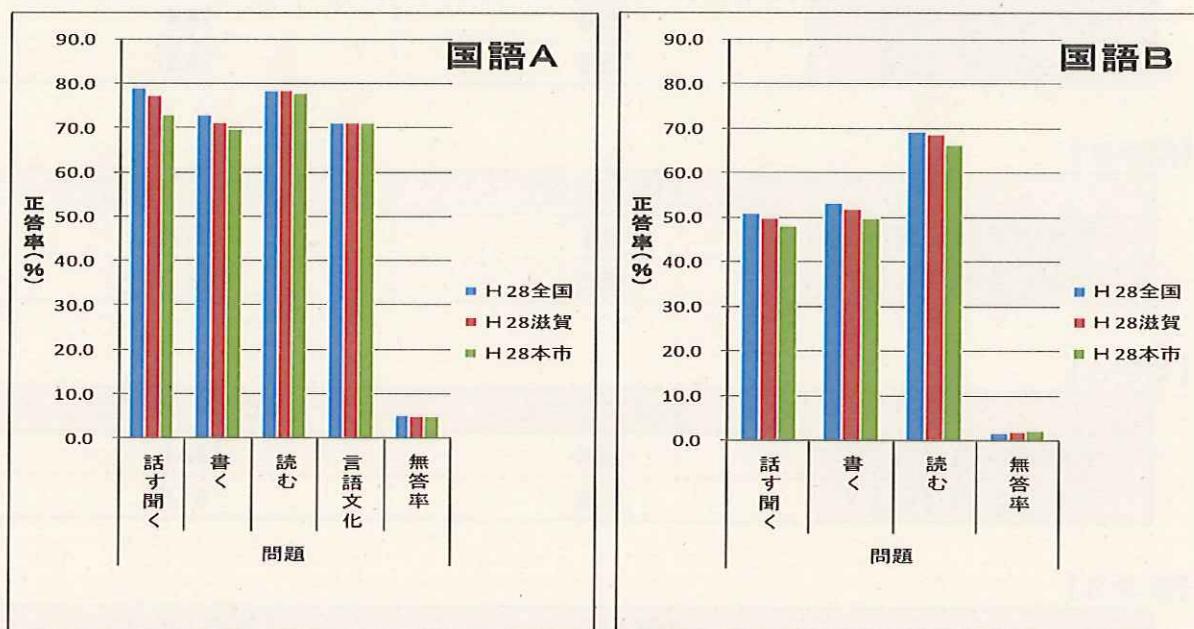
- 全国と比較すると、国語、数学ともに、知識を問うA問題、活用を問うB問題に関わらず、4%程度（3. 3～4. 5%）低い。

近江八幡市の児童・生徒の全体的な傾向：領域別平均正答数の比較から

小学校

話す聞く＝話すこと・聞くことに関する問題、書く＝文章を書いたり表現に関する問題

読む＝読み取りに関する問題、言語文化＝漢字や言葉の特徴やきまりに関する問題



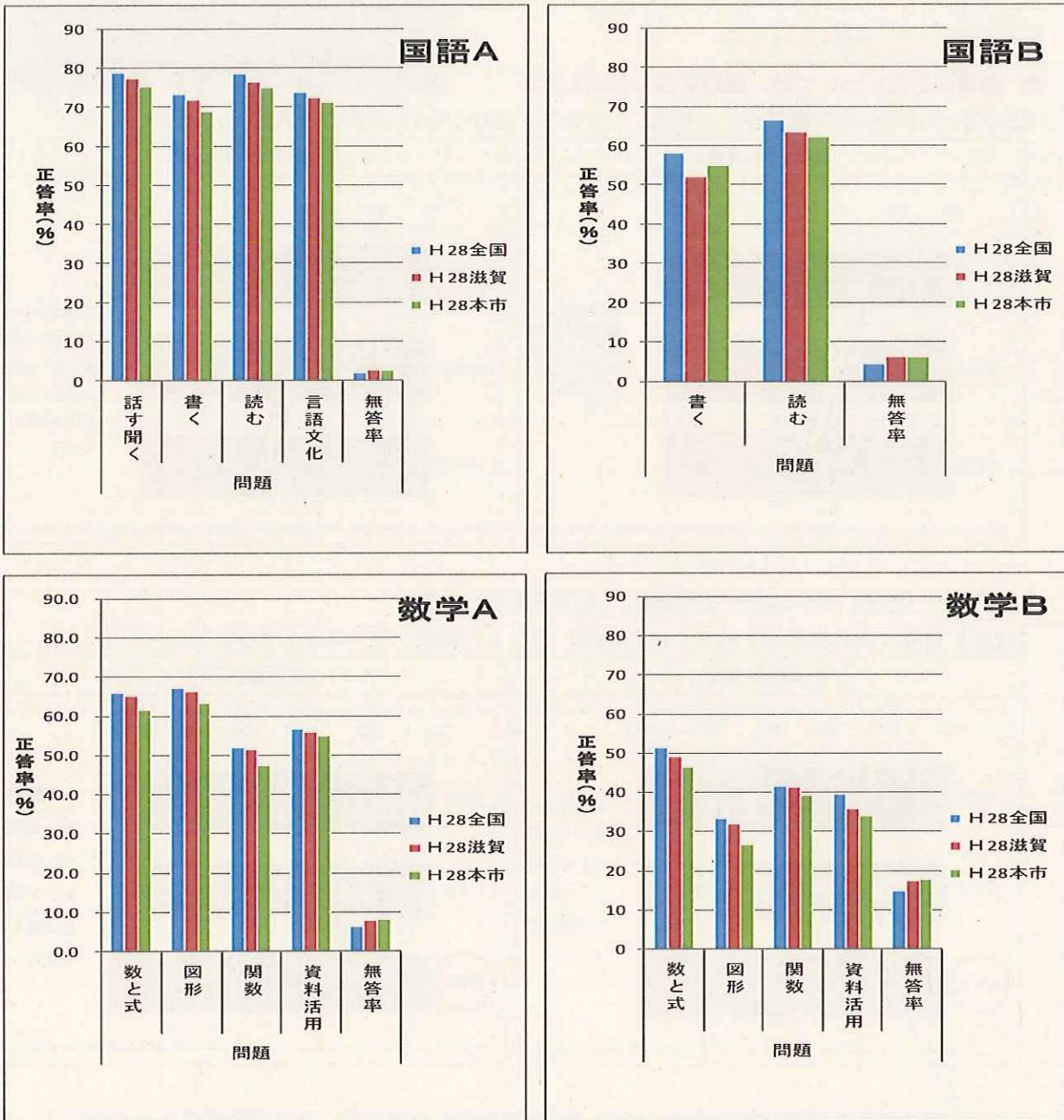
国語では、『読む』『言語文化』の領域は、全国・県とも差はなく、よくできています。『話す聞く』の領域に課題が見られ、話し方や聞き方のスキルを授業の中で学ぶ機会を増やしていきます。

算数では、『量と測定』『図形』の領域で成果が見られます。特に『量と測定』の領域では、国の平均正答率と変わりません。『数量関係』の領域で課題が見られ、折り紙など具体物を用いた活動を重視し、図形の特徴を実感として理解できるように授業改善を行っていきます。

無解答率は、全国・県・市とともに、かなり低くなりました。特に算数Bでは、本市の無解答率は、全国・県よりも少なく、子どもたちが最後まで粘り強く取り組んでいる様子が伺えます。

中学校

話す聞く=話すこと・聞くことに関する問題、書く=文章を書いたり表現に関する問題
読む=読み取りに関する問題、言語文化=漢字や言葉の特徴やきまりに関する問題



国語では、B問題の『書く』の領域で成果がありました。日頃の授業から条件設定をした上で作文等書くことに精力的に取り組んできた成果であります。「読む」の領域において、大きな課題を感じています。日頃からの読書活動を推進し、読解力が向上するように取り組みます。

数学では、A問題の『資料活用』の領域で成果がありました。A・Bそれぞれの問題を通して、『図形』や『関数』の領域に課題があります。日頃から数学的な表現を用いて説明する表現活動を多く取り入れた授業を推進していきます。

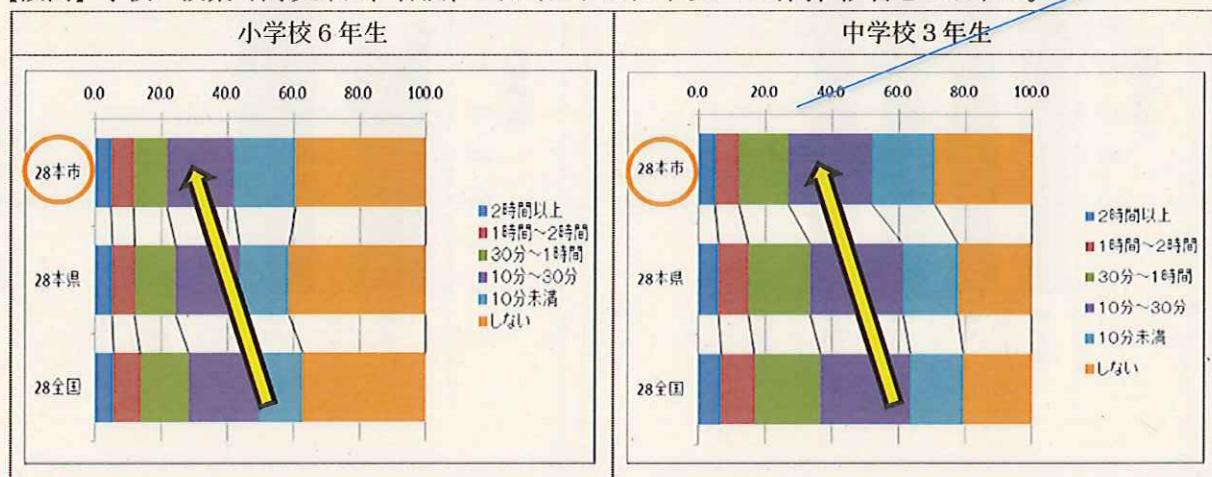
無解答率は、全国・県・市ともに、数学Bで多い傾向があります。

5. 児童・生徒質問紙の結果

基本的な生活習慣について

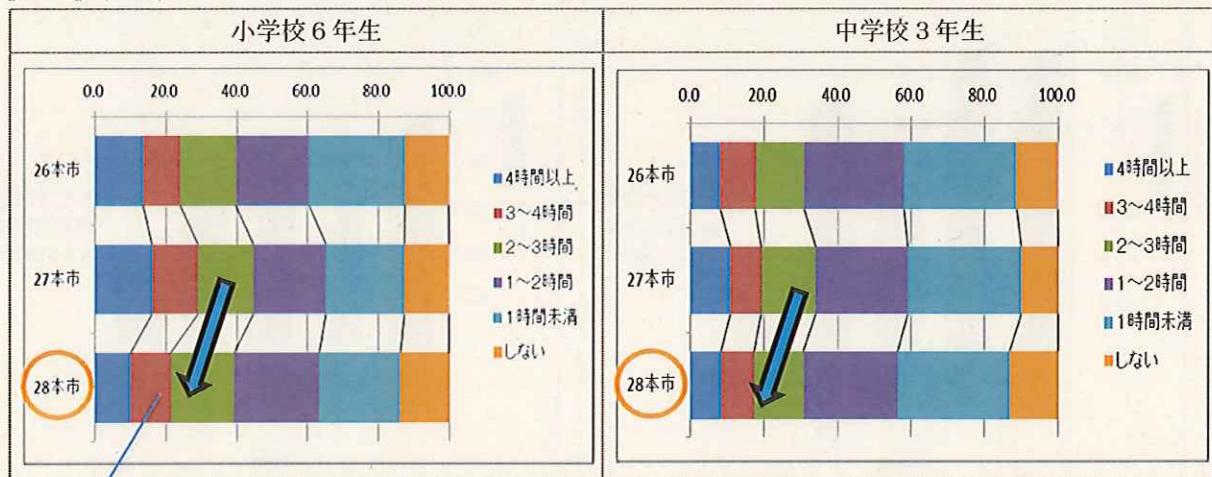
- 読書の習慣については、課題が見られました。

【設問】学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



- テレビ（電子）ゲームをする時間に、改善が見られます。

【設問】普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビ（電子）ゲームをしますか。



- 基本的な生活習慣の確立と、学力（学力調査の平均正答率）とは相関関係があります。
昨年度作成しました、下の『啓発リーフレット』をご覧ください。

1日2時間以上ゲームをする児童・生徒の割合に、昨年度と比較して大きな改善があります。ご家庭で使用時間などルールを決め、家庭での生活がより一層充実することを願っています。

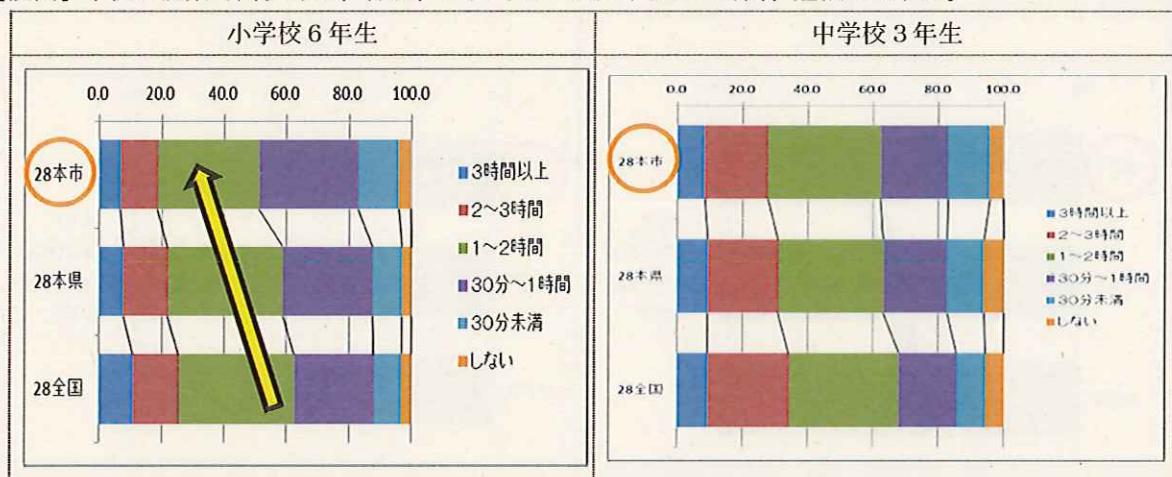


<http://www.city.omihachiman.shiga.jp/cmsfiles/contents/0000010/10033/seikatusyuukan.pdf>
<http://www.city.omihachiman.shiga.jp/cmsfiles/contents/0000010/10033/sumaho.pdf>

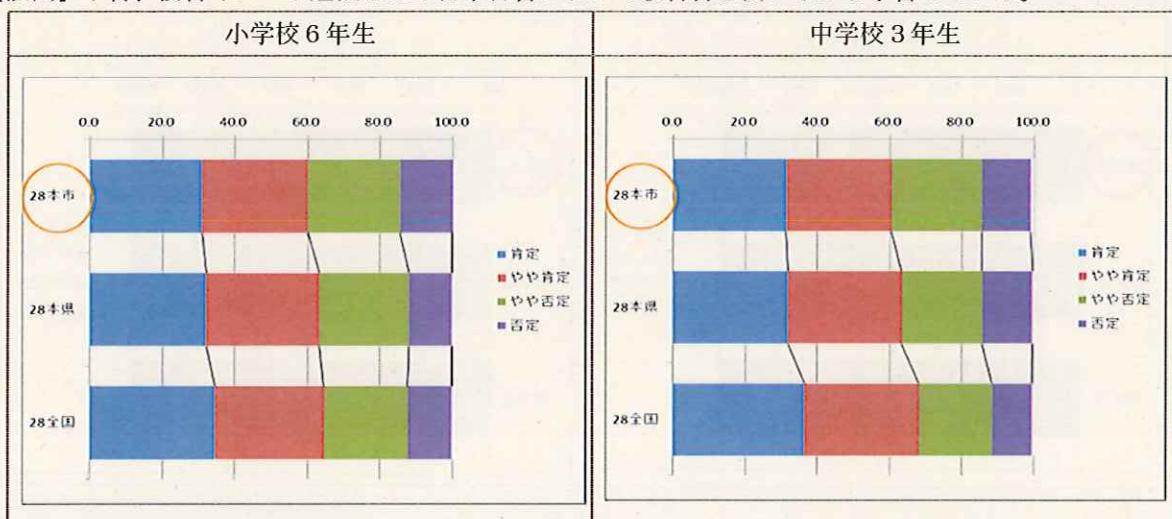
家庭学習の習慣について

● 家庭学習にあてる時間や学習の仕方、授業の復習にあてる時間にそれぞれ課題が見られます。

【設問】学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

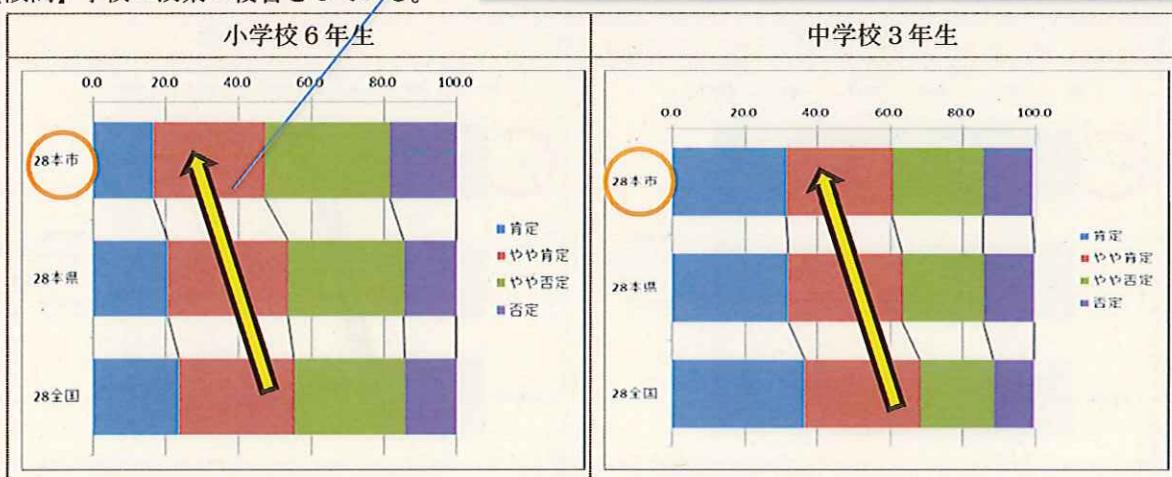


【設問】予習、復習やテスト勉強などの自学自習において教科書を使いながら学習している。



小学校では特に、その日学習したことの振り返りを、家庭で復習として行うと、学力の定着に大いに役立ちます。

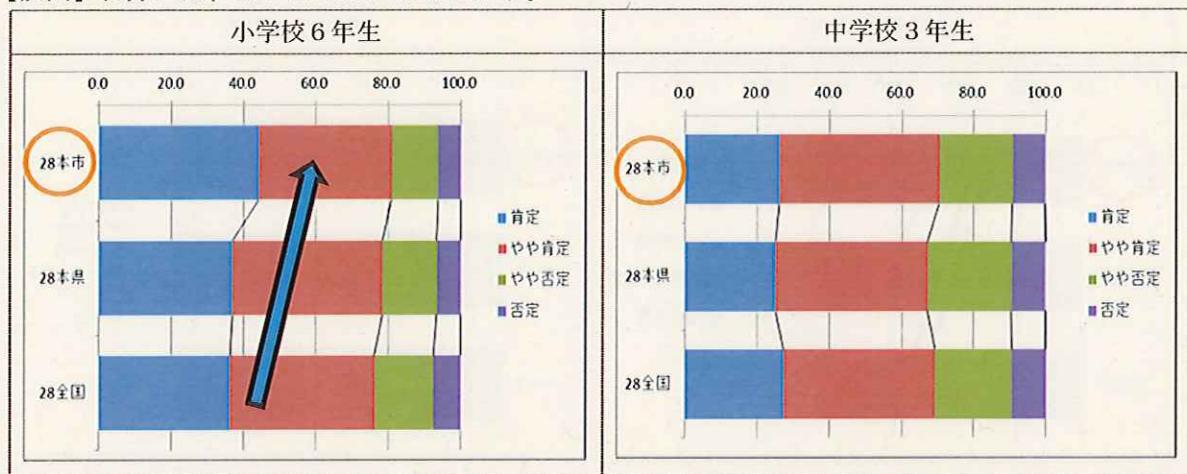
【設問】学校の授業の復習をしている。



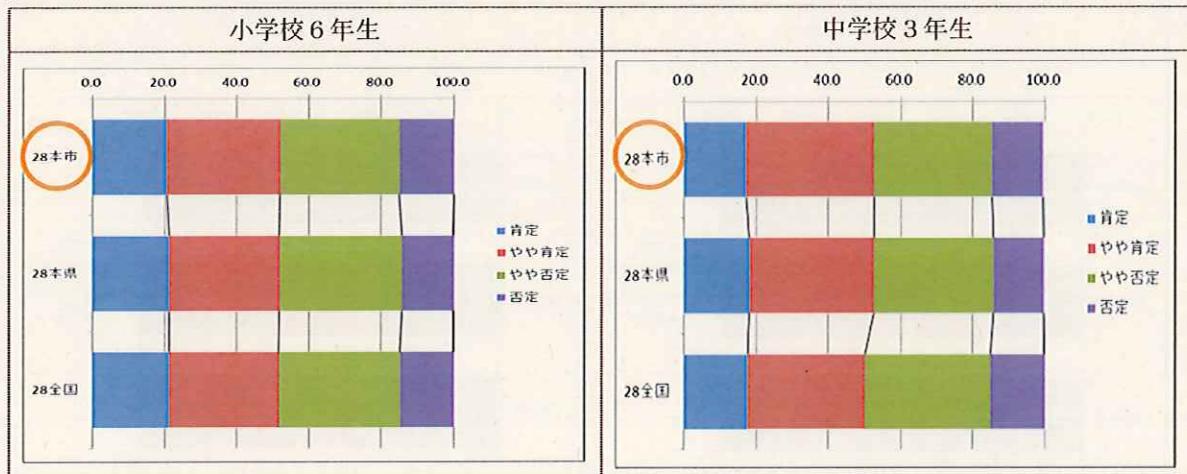
自尊感情・自己肯定感について

- 自尊感情・自己肯定感は高まっています。自己肯定感は子どもの学習意欲を引き出す土台です。

【設問】自分には、よいところがあると思う。



【設問】友だちの前で自分の考えや意見を発表するのは得意だ。



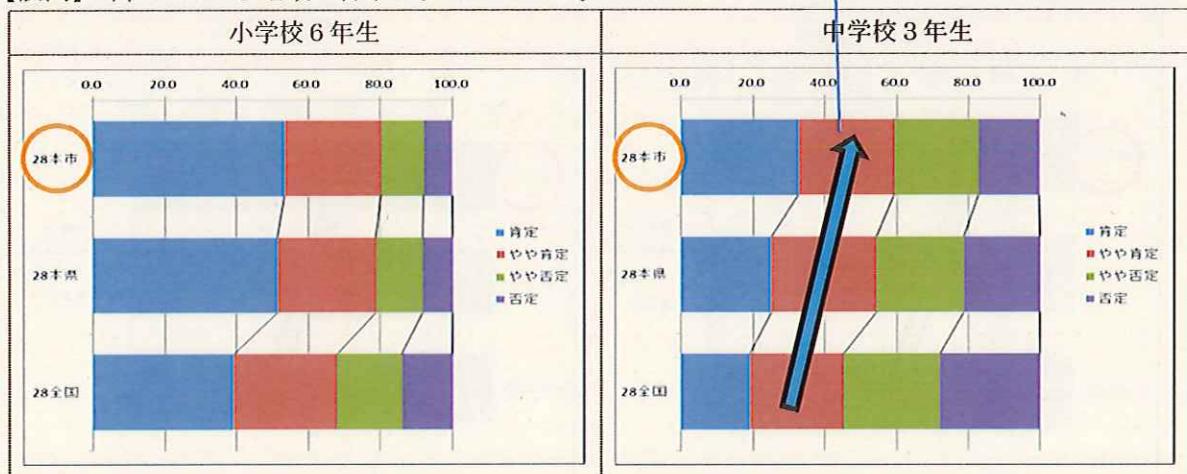
地域との関わりについて

- 地域ぐるみで子どもを育てる環境が整っています。

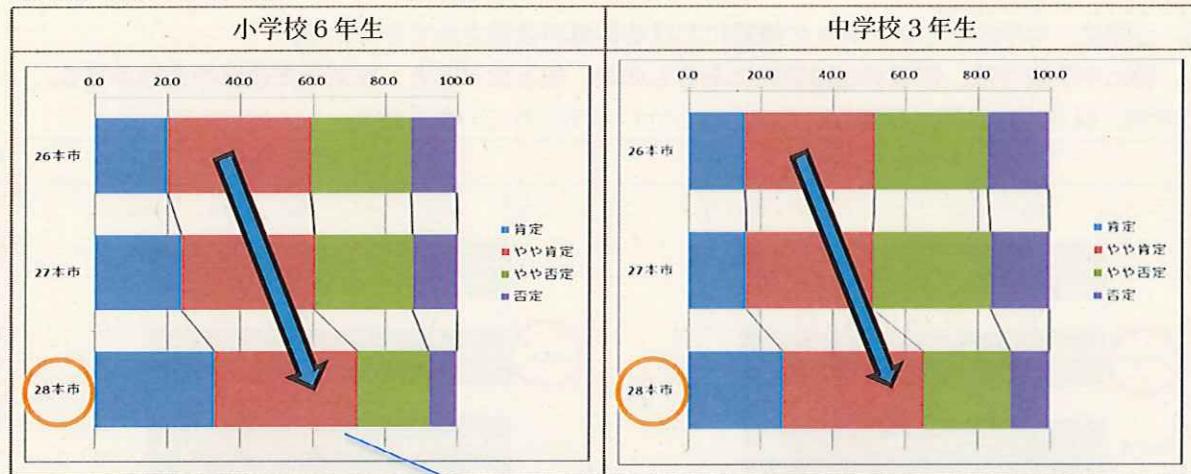
また、地域をよりよくしていこうとする意識が育っています。

【設問】今住んでいる地域の行事に参加している。

中学生は特に、地域行事に参加している割合が、国や県と比較して高いです。



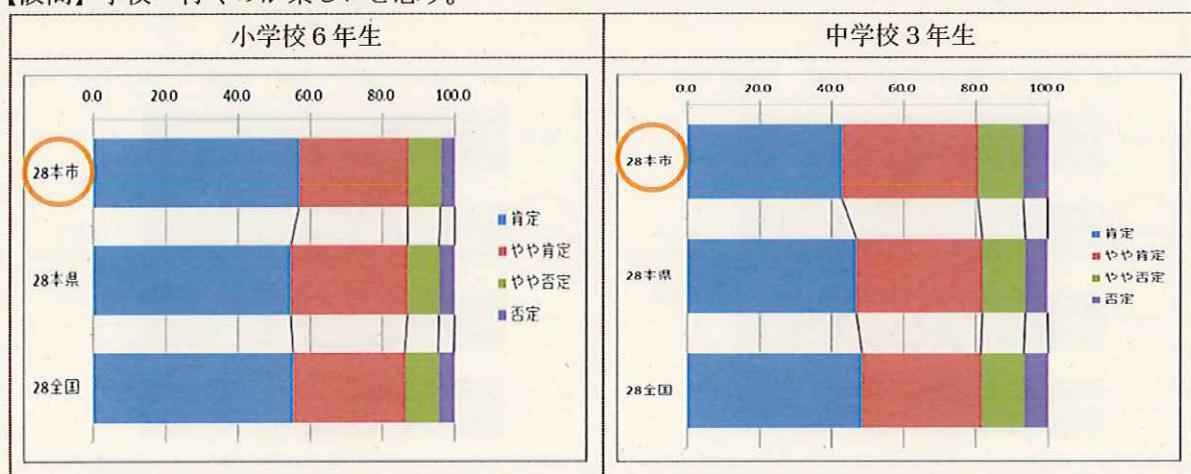
【設問】地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。



ふるさと近江八幡を大切に思う気持ちがぐんぐん育っています。

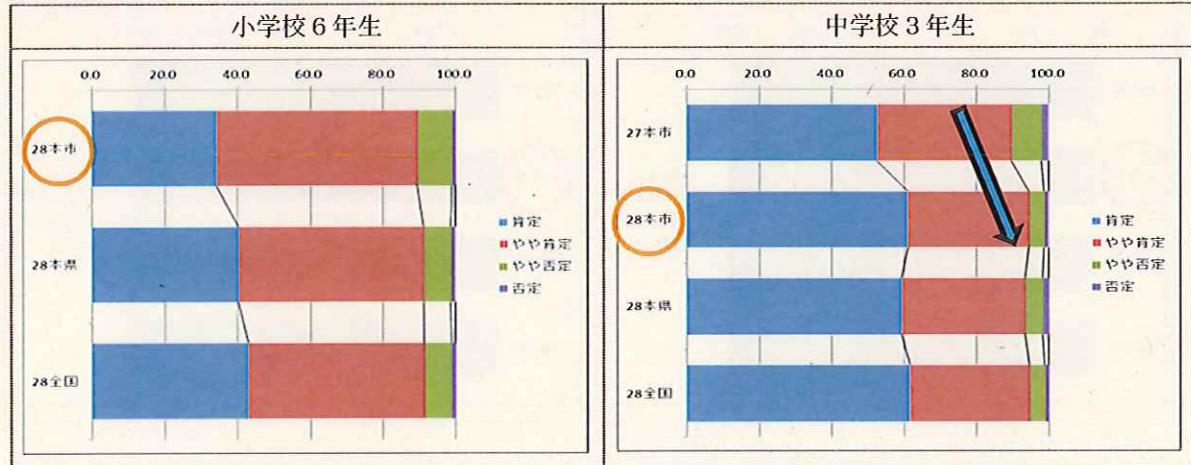
- 学校へ行くのが楽しいと肯定的に思っている児童・生徒は、国の割合とほぼ同じで、小学校では9割程度、中学校では8割程度の児童・生徒が学校生活は楽しいと感じています。

【設問】学校へ行くのが楽しいと思う。



- 中学校では、学校のきまりを守っていると肯定的に答えている生徒の割合が増え、国と同等である。
- 小学校では、肯定的に答えている児童の割合が、国と比べて若干低い。

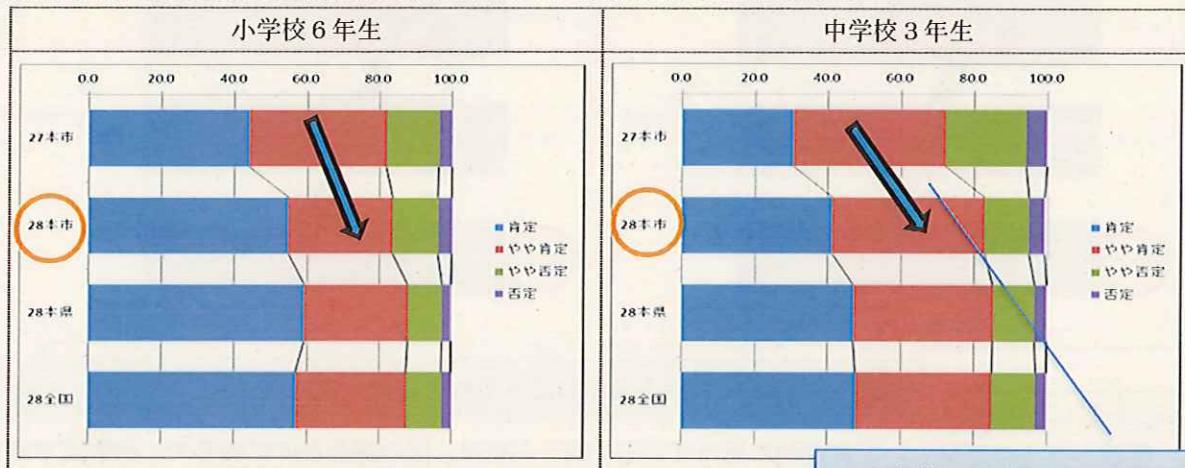
【設問】学校のきまりを守っている。



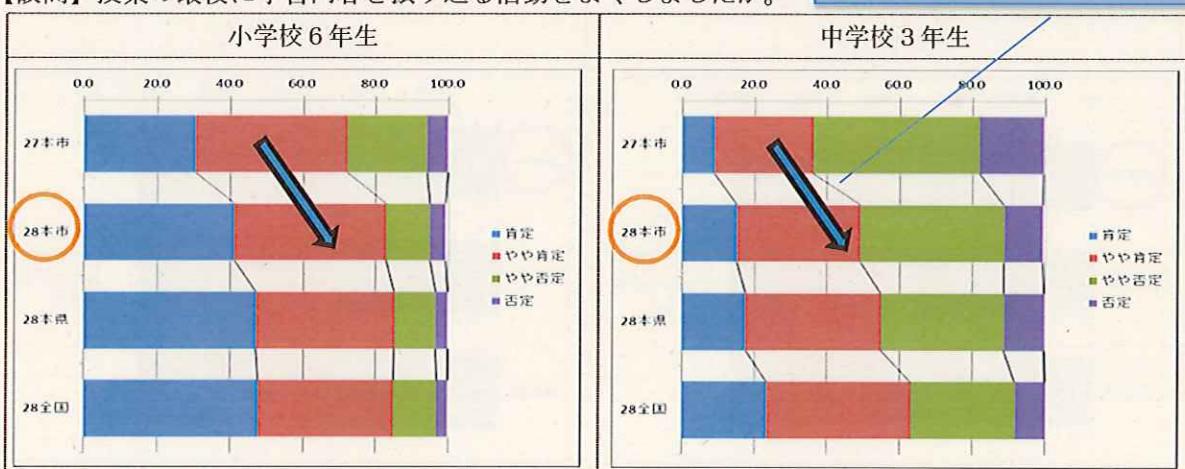
学校での授業について

- 小学校、中学校ともに、日々の授業における指導が改善されてきている。
- 特に中学校では、指導が改善傾向にあるものの、国と比べると、まだまだ改善の余地がある。

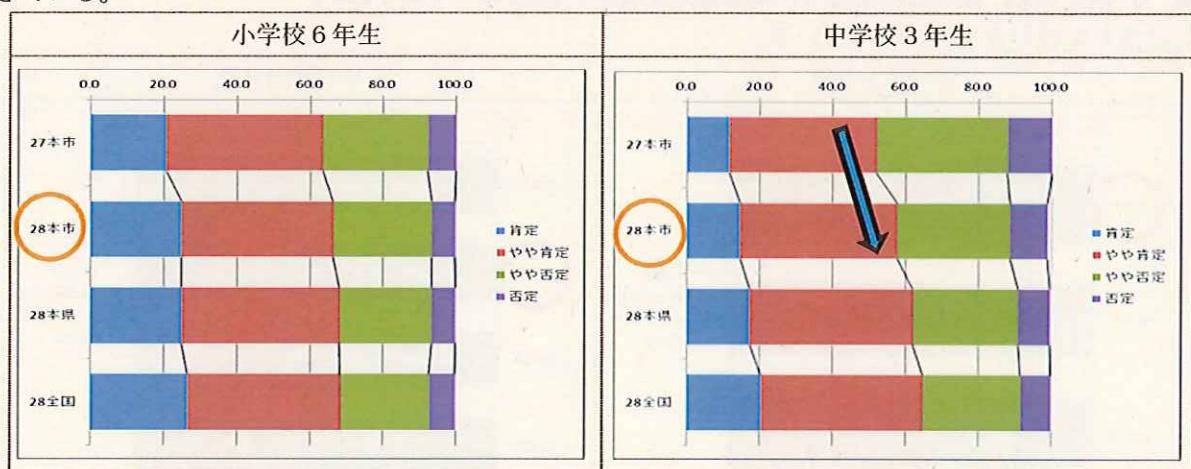
【設問】授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていましたか。



【設問】授業の最後に学習内容を振り返る活動をよくしましたか。



【設問】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。



6. 課題解決のための今後の重点的な取組

本市全体を通して

昨年度の結果から比較すると、小・中学校ともに、着実に成果が表れてきています。下記に示しました昨年度からの重点的な取組を引き続き推進し、教職員一人ひとりが率先して指導改善に図るとともに、全教職員で一枚岩となって、当たり前のことを徹底して取り組む教職員組織の構築をめざします。

① 自分の能力を伸ばせるように、授業全体の質（レベル）の向上をはかります。

- 学級やグループでの話し合い活動を効果的に取り入れ、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう知識を活用する授業へと改善していきます。
- 授業者が一つひとつ丁寧に説明するにとどまらず、子ども自身に考えさせる授業へと改善していきます。
- 国語・算数（数学）の授業を中心に、発達段階に応じて、次の項目を重点的に指導していきます。

国語	<ul style="list-style-type: none">• 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすること• 自分の考えを書くときに、考え方の理由が分かるように気をつけながら書くこと• 意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫すること
算数 数学	<ul style="list-style-type: none">• 問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えること• 問題の解き方や考え方方が分かるようにノートに書くこと• 問題を解くときに、もっと簡単に解く方法がないか考えること

② 習熟度に応じたきめ細かな学習支援を行います。

- 複数指導や少人数指導を実施している学校では、習熟度別のグループ編成による授業を取り入れ、学習の得意な子には発展的な学習ができるように、学習の苦手な子には基礎・基本の定着が図れるように個に応じた授業を推進します。
- 放課後や長期休業などを使い、発展的な学習や基礎・基本の定着が図れる補充学習を推進します。
- 学校支援地域本部事業等と連動させ、授業支援・学習支援として、大学生も含め地域の人材を活用していきます。

③ 学習したことの定着を図るため家庭学習を充実させます。

- 基礎基本の定着を図るためのドリル学習は大切であるが、それ以外に発展的な内容に取り組める学習や練習問題など多く取り入れていきます。
- 発達段階に応じて、活用するドリル・ワークなども見直しを図ります。自分の考え方を書く、まとめるなどが数多くできるものを活用していきます。

④ 学習内容の定着を確かめるための評価テストなどのあり方を見直します。

- ・学習の定着度を図るためや評価をする際に、授業者によるオリジナル評価問題（知識を活用できる問題）も取り入れていきます。
- ・中学校においても、公立高校の入試問題が、知識を活用する問題を中心に出題されるようになったことともあわせ、定期テストの問題形式を見直していきます。

⑤ 落ち着いた環境の中で学習ができるように授業規律の向上を図ります。

- ・「だめなものはだめ」という意識をしっかりと子どもたちに根付かせ、できていない場合は「やり直し」をさせるなど規範意識を高めます。
- ・「チャイムとともに始まり、チャイムとともに終わる」という基本を大切にし、45分間（中学校は50分間）、子どもたちの学びにとって、無駄な時間がないように授業を展開します。
- ・授業者は、適切な言葉づかいで授業を行い、学習用語も正確に指導します。
- ・校区の小・中学校が授業規律を共有し、一貫した取組の中で授業が展開できるように改善を進めます。

⑥ 「生きる力」育み委員会の指導・助言を受け、「生きる力」育みプランに沿って取組を推進していきます。

- ・家庭生活や家庭学習が子どもの学びにとって豊かなものになるように、「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」運動と合わせて、保護者や地域に啓発をしています。
- ・子どもにとって、学校・園が豊かな連續した学びの場になるように、中学校区内における就学前・小学校・中学校が連携し、めざす子どもの姿を共有しあい、それぞれの発達段階における共通実践づくり、共通のルールづくりを進める。そのために、教育委員会として、校区における専属の指導主事を置き、事業を推進します。
- ・市内4校への図書司書配置事業の効果を検証し、図書司書の増員を図り、読書環境を整備し、子どもが読書に親しむ時間を増やします。
- ・

<平成28年度 図書司書配置校>

八幡小学校	馬淵小学校	八幡東中学校	八幡西中学校
-------	-------	--------	--------

- ・学校内外の授業改善・学力向上に関わる研修を充実させ、教員の授業力・指導力向上を図ります。
- ・授業改善推進校の研究成果を、市内小・中学校に広め、各校における授業改善に生かします。

<平成28年度 授業改善推進校>

研究指定校	校内研究のテーマ
桐原小学校	自分の思いを豊かに表現し、つながりあう子どもや集団の育成 ～国語科の授業改善を通して～
馬淵小学校	豊かな心をもち、生き生きと主体的に学習できる子どもの育成 ～国語科の学習を通して～
安土中学校	『思考力・判断力・表現力』を高める授業の確立 ～知識・技能の習得から応用・活用へ～

- ・『ふれてみて』みんなで学ぶICT活用事業としてタブレットパソコン研究指定校の研究成果を、市内小・中学校に広め、また教育研究所と連携を行い、各校におけるICT機器の有効活用を図ります。今年度研究の中間発表会を行います。

<H27～H29 タブレットパソコン研究指定校>

研究指定校	校内研究のテーマ
桐原東小学校	主体的に学び合い、生き生きと活動する児童の育成 ～魅力ある授業づくり、つながり合う仲間づくりを通して～
武佐小学校	自分の思いや考えを持ち表現でき、相手の思いを受け止められる子どもの育成 ～アクティブ・ラーニングの視点からICTを活用した学習指導のあり方～
八幡中学校	生きる力を育む授業をめざして ～言語活動やICTを活用して、思考力・判断力を育む授業づくり～

- ・平成32年度改訂の次期学習指導要領を見据え、ハロープロジェクト事業として、島小学校を小学校における外国語（英語）の教育課程特例校に指定して、研究を行っている。島小学校の研究成果を、市内の小学校に広め、市内全体の小学校における外国語（英語）の充実を図る。今年度研究の中間発表会を行います。

<H27～H29 文部科学省指定教育課程特例校>

研究指定校	校内研究のテーマ
島小学校	思いを伝え合う楽しさを実感できる英語活動の展開

生きる力(知・徳・体)

育みたい力の4つのポイント

夢・目標	将来を見据え、目標を持つ
つながり	人と豊かにつながる

ねばり	ねばり強く取り組む
自己解決	自分の力で取り組む

互いの人権を尊重する心と態度の育成

- ◇ 基本的生活習慣の定着
- ◇ 読書習慣の定着
- ◇ 運動習慣の定着
- ◇ 自尊感情の涵養

- ◇ 学習意欲の向上
- ◇ 基礎・基本的な学力の定着
- ◇ 思考力・判断力・表現力の向上
- ◇ 家庭学習の定着

基本的生活習慣の確立

「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」

1. 家庭学習の推進

【活用】H27.4 発行リーフレット
H27.12 発行リーフレット

【視点】①習慣づくり(時間・量・方法)
②内容の見直し(ドリル+α)
α:発展的学習・練習問題

③活用教材の見直し

【備考】授業改善とのリンク

2. 読書の推進

【視点】①学校図書館の有効活用
②朝読書活動の充実
③市立図書館との連携
・ブックトーク・読み聞かせ

【学校司書配置校】4校

八幡小・馬淵小・八幡東中・八幡西中

3. 運動の推進

【小学校】全校

【内容】健やかタイムの実施
・10分間運動

4. 食育の推進

【各校】残食を減らす取組

『生きる力』育み委員会の役割

- ① プランへの指導・助言
- ② プランの検証・総括
- ③ 次年度のプランへの提言

校種間連携

中学校

小学校

就学前

小中連携

幼小連携

学力向上・授業改善

1. 授業改善推進校の設置

【視点】①授業の質の向上
②習熟度など個に応じた支援
③評価テストなどの見直し
④授業規律の向上
⑤家庭学習の質の見直し

【指定校】桐原小・馬淵小・安土中

【備考】担当指導主事の派遣

外部有識者による指導助言

2. タブレットPC研究校の設置

【視点】①ICTの有効活用
②グループ活用
③思考力・表現力の向上

【指定校】桐原東小・武佐小・八幡中

【備考】市教育研究所との連携

ICT支援員の派遣

3. 校区・校内による研究会の充実

【4校区】幼・小・中の校種間連携

【視点】①授業規律の共有化

②生活約束の共有化

③家庭学習の共有化

【備考】担当指導主事の派遣

4. 学力・学習状況調査の分析

【各校】自校採点・全教員による解答

【視点】①早期の授業改善

②学力向上策PDCA見直し

【備考】指導主事等による指導・助言

5. 市教育研究所の講座開設

【視点】①授業力向上(ネタの種)

②ICT機器活用力向上

③外国語(英語)指導力向上

④若手教員の授業・指導力向上

現状と課題

- ▼ 基本的な生活習慣が十分に身についていない
- ▼ 家庭学習が習慣化されていない
- ▼ 読書の習慣が定着していない
- ▼ 論理的な思考・判断・表現力が十分でない

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

八幡小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

- 教科の授業で思考力・表現力を伸ばすために、課題について自分の考えを持つ場を設定し、自分の考えを書き表したりお互いの考えを伝え合ったりする展開を実践します。
- 算数の少人数指導や個別指導を通して、習熟度に応じた学習支援を行います。
- 家庭学習の充実、質の向上のために、「復習・予習・読書」に取り組むよう指導します。
- 学び確認テストや学び直しプリント等を活用し、各学年のまとめの学習を行います。
- 授業規律の向上のため、話す・聞くことの学習ルールやノートの指導を丁寧に行います。
- 基本的な生活習慣及び学習習慣の育成のため、「早寝・早起き・あさ（挨拶）・し（食事）・ど（読書）・う（運動）」に個々の目あてを設定して取り組みます。

[成果]

<学力調査から>

- 国語では、『読む』の領域で成果が見られる。漢字の読み書きは、おおむね良好である。
- 算数では、『数と計算』『量と測定』『図形』の領域で成果が見られる。知識を主とする問題への理解が良好である。

<児童生徒質問紙の回答状況から>

- 将来の夢や目標を持っている児童が多い。
- 家で学校の宿題をしっかりする児童が多い。
- 授業中分からないことは、その場で質問して解決する児童が多い。

[課題]

<学力調査から>

- ▲国語では、『書く』領域で課題が見られる。ローマ字の読み書きは、苦手な児童が多い。
- ▲算数では、『数学的な考え方』の領域に課題がある。式の意味等の説明を記述することが苦手な児童が多い。

<児童生徒質問紙の回答状況から>

- ▲自分で計画を立て、家で進んで勉強することが苦手な児童が多い。
- ▲テレビやDVDを見たり、ゲームをしたりする時間が長い児童が多い。

[今後の課題解決への重点的な取組]

- 昨年度の結果から比較すると、学ぶ力の向上につながる授業改善や学習習慣・生活習慣の育成の取組を進める中で、児童の学習に取り組む姿勢や基本的な知識・理解の力が高まっています。また、読書・予習・復習に取り組む児童も少し増加しています。しかし、改善すべき課題も多くあり、引き続き、これまでの重点的な取組を推進します。
- 読む・書く・話し合う言語活動を授業の中で充実させ、日常生活の中でも経験を広げたり深めたりできるよう、学校生活や家庭学習の改善に取り組みます。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

島小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 授業改善

- (1) 「思いや考えをノートに書いたり、友達に伝えたりする活動」を意図的に取り入れます。
- (2) 「学習用語を使う、何字以内」といった条件を与えて書く取り組みを行います。

2. 指導の工夫改善

- (1) 希望者対象の「放課後学習」で自主的な勉強のすすめを促すよう指導します。

3. 教員の授業改善研究

- (1) 授業分析をしっかり行った研究を進め、日々の実践に生きるよう工夫します。

4. 啓発連携

- (1) PTAと連携して、「早寝運動」「予習のすすめ」や「メディア利用」を考え合います。

[成果]

<学力調査から>

- 国語A・算数Aは、全国平均を上回ることがで
きた。平成19年度からみると、右肩上がりで
伸びてきている。
- 国語Bは、昨年度より伸びており、19年度か
らみると右肩上がりで伸びている。
- 算数Bは、昨年度より上回った。
- 無回答率が少なかった。

<児童質問紙から>

- 地域行事への関心は高く参加率がよい。
- いじめに関しては全員がよくないと思ってい
る。

[課題]

<学力調査から>

- ▲国語も算数も、活用を問うB問題が、全国・県の
各平均値よりも下回っており、課題がある。
- ▲とくにBテストの、課題を読み取り場面を理解
する力が弱い。途中で分からなくなるとあきら
めてしまいがちである。

<児童質問紙から>

- ▲学校外及び休日等での学習時間が、県・全国平均
より少ない。
- ▲読書時間が県・全国平均より少ない。
- ▲国語や算数が生活に役に立つと考える子どもの
数が県・全国平均値より低い。
- ▲課題を見つけ、資料を集め、話し合って解決し
ていくという活動に弱い。

[今後の課題解決への重点的な取組]

- Aテストの伸びが大きかったことは、地道な学習への取組が功を奏しているといえます。日々の学
習指導や家庭学習での基礎基本を中心とした取組をさらに進めていきます。
- Bテストの正答率が低いことは、これまでから十分改善されていないので、重点的に取り組みたい
と考えています。とくにこれまで進めてきたノート指導（自分の考えやふりかえりを書くなど）
を中心に進めていきます。さらに、課題や場面の読み取りが弱いので、自力で読み解く力をつける
ための指導や読み取ったことを自分の言葉で書いたり話したりする学習を充実させる場を作るこ
となどに取り組みます。
- 算数科では、少人数指導を有効に使いながら、理解の十分でない子どもへの指導に努めます。また、
理解の一定できた子どもには、一歩進めた課題にチャレンジさせていくなど工夫します。
- 週末チャレンジ家庭学習を出して、（提出は任意としますが、）子どもの興味を説いてながら活用力
を伸ばす取組を行います。
- PTAと連携して、「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」など家庭生活の改善に取り組みます。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

沖島小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 授業において

- (1) ノート指導の工夫・改善…めあてとまとめを書くことにより、見直せるノートにします。
- (2) 授業規律の継続指導…全員同じ方向で当たり前のことを見直すように指導します。
- (3) 体験活動のさらなる充実…量感を実感したり、説明を書いたり話したりする活動を重視します。

2. 学校生活において

- (1) 丁寧な指導…場に応じた適切な言葉で話す、話を分析しながら聞く、じっくり本を読むことを重視します。
- (2) 表現の場作り…集会や発表会等、自分の考えや意見を発表する機会を増やします。

3. 家庭学習において

- (1) 授業とのつながりを意識した家庭学習…内容は復習や予習を意識し、読書の時間を確保します。

全校児童の傾向として見えてきたもの

[成果]

- 子ども自身が、「何を学ぶのか」を意識して学習に取り組めるようになってきた。
- 学習時のあいさつや言葉遣いなどについて、教職員も意識し、指導を統一することで、子どもの言動が整ってきた。
- 全校で行う朝の会での司会やスピーチを通して、発表の内容や方法を考えて伝える力がついてきた。
- 朝の学習や学習時間の並行読書とともに、家庭学習に積極的に読書を取り入れることで、集中して読む姿勢や読解力がつきつつある。

[課題]

- ▲学習方法を自分で見つけたり、学習の流れを自分で計画したりする力は弱い。
- ▲自分の思いを的確に表現する言葉がなかなか見つからず、豊かで個性的な表現をすることが難しい。
- ▲話す力がつきつつある一方で、作文や日記などに体験したことやテーマについて的確に書いたり、自分の考えを筋道立てて書いたりする機会を十分に確保できていない。
- ▲子どもによる読書量の差が大きいこと、読書をする分野の偏りがあることから、様々な分野の読書を体験させたい。

[今後の課題解決への重点的な取組]

- ・学習の見通しを持ったり、物事を整理して考えたりする力を伸ばすために、論理的な思考力を伸ばします。そのために「書く活動」を家庭学習にも意識して取り入れるとともに、学校での学習でも意識的に取り入れ、書く回数を増やすことで、書くことに対する子どもの苦手意識をなくします。
- ・様々な分野や作家の書物にふれさせることで、豊かな言葉で自分の思いを表現することができるようになります。
- ・選択する場面や決定する場面を意図的に取り入れた教材の与え方や単元構成を工夫することで、子どもが自ら選び、計画し、解決に向かう学習形態を作り出します。また、その学習の流れを繰り返すことで、計画的な学習方法に習熟させます。指導者が直接指導する場面に加え、間接指導の在り方も研究し、児童相互の高め合いを作り出します。
- ・タブレットや図書資料を積極的に活用し、児童の学びをより深く、効率的に進めます。また、学習の成果をホームページ上で行うことで、相手を意識して発信や発表をする力を鍛えます。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

岡山小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 岡山タイム（毎週金曜日の朝学習）での「読み」「書き」を中心とした学習の継続
 - (1) 「読み」「書き」の力をつけるために、国語の音読や視写（低学年）、プリント教材での学習を行います。
 - (2) より効果的・適切である教材プリントを検討・選択していきます。
2. 「学び合い」の素地づくり（授業規律の向上）
 - (1) 発達段階をふまえたノート指導（算数科）を他教科へ広げ、定着させていきます。
 - (2) 授業規律の向上に向けて、全校共通して取り組んだ「話し方、聞き方ルール」を継続しながら、考え方や思いを表現できる説明スキルを身に付けていきます。
3. 算数では、日常生活の事象を問題として取り上げます。

[成果]

- 国語Aは、全国平均を上回り、基礎的・基本的事項の定着度は概ね良好である。
- 算数Aは、数量関係に課題があるが、どの領域とも平均的に定着している。
- 算数Bでは、量と測定や図形の平均正答率が高かった。
- 児童生徒質問紙の「自尊感情や社会性・公共心・学校生活に関わって」については、かなり高く満足度が高い。
- 家庭学習では、6割の児童が自分で計画を立て復習を含んで取り組める。
- 国語や算数の学習内容や重要性もよくわかり、ノートにまとめたり、話し合い活動に取り組もうとしたりして努力している。

[課題]

- ▲活用を問うB問題の平均正答率は、全国から1～4ポイント以上の差があり、特に、国語B問題には大きな課題がみられた。
- ▲国語Aでも、複数の叙述を基にして、人物像を捉える「読む能力」や目的や意図に応じて、収集した知識や情報を関連づける「話すこと・聞くこと」やローマ字などに弱さが目立った。
- ▲国語Bでは、相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問をするなどの「話すこと・聞くこと」に加えて「書くこと」に弱さが目立った。
- ▲算数では、百分率、式の意味（数学的な表現）を論理的に解釈する力に大きな課題がみられた。
- ▲家庭学習や読書の時間がやや短く、新聞から情報を得るなどの家庭の学習環境への十分な整備が必要である。

[今後の課題解決への重点的な取組]

- ◎児童の学習状況から、徐々に定着してきているため、重点的な取組を引き続き推進し、教職員が同一歩調で授業改善に取り組んでいきます。
- 2. 「学び合い」の素地づくり（授業規律の向上）については、学び部会を中心に振り返り、具体的な取組を再考します。
特に、（2）授業規律の向上に向けて、全校共通して取り組んだ「話し方、聞き方ルール」を継続しながら、考え方や思いを表現できる説明スキルを身に付けていきます。
→ 6年間を見通した、「話し方・聞き方」の系統性を見て、各学年に必要な力をつけるようにします。自分の考えと友達の考えを聞き比べしたり、考えのもととなる文章や言葉に気をつけて読み深めたりするような学習展開にします。
- ◎基本的な生活習慣についても概ね定着しているが、就寝時間の遅い児童やゲーム等に時間を費やしている児童も4割弱いるので、家庭での時間の使い方を含めて家庭との連携をさらに深めて協力を呼びかけ、「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」の徹底を図ります。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

金田小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 授業の改善に努めます。

(1) 各授業において「めあて」を明確にし、学習したことを振り返ることを位置づけます。

(2) ノート指導を丁寧にし、書くことを習慣づけます。

2. 家庭学習の充実に努めます。

(1) 「家庭学習のてびき」をもとに、家庭学習についての指導をします。

(2) テレビなどを消し、学年の目標時間学習できることに挑戦させます。

3. 読書活動の活性化に向けた取組をします。

(1) 朝の読書タイムを充実させます。（読み聞かせ、本の携帯）

(2) 「読書貯金」や「親子読書」の推進を図ります。

[成果]

<学力調査から>

- 国語・算数とも全国平均を上回っている。
- 漢字の読み書きなど、基礎的な力はついている。
- 四則計算などの技能や基礎的な知識は身についている。

<質問紙の回答状況から>

- 図書室・図書館に行く児童が増えてきた。
- 予習・復習をしている児童の割合は増えてきた。
- 自分にはよいところがあると考える児童の割合は85%を超えていている。
- 学校に行き友だちと会うことが楽しいと感じている児童は95%を超えていている。

[課題]

<学力調査から>

- △図や表と関連づけて読みとっていくことに弱さがある。
- △自分の考えを書く問題が苦手である。書くことへの抵抗感や自分の考えに対する自信のなさが影響している。
- △割合や図形に対する理解と応用に弱さが見られる。
- △答えの求め方や理由を説明する問題に弱さが見られる。

<質問紙の回答状況から>

- △学習目標の明示や学習の振り返りができていない。
- △ノート指導が十分されていない。
- △話し合い活動が十分されていない。
- △家庭学習をする時間が短い。

[今後の課題解決への重点的な取組]

授業の改善に努めます

- ① 子どもたちがめあてを持って取り組める授業づくりと学習の振り返り活動を大切にします。
- ② 自分の考えや疑問等書く活動を取り入れた授業づくりとノートの指導。
- ③ 考えを交流し合う授業づくりと板書の工夫。
- ④ 学習内容に関する幅広い調べ学習を取り入れる学習展開の工夫。

家庭学習の充実に努めます。

- ① 一定時間、集中して学習に取り組む習慣。・・・ 基本的には、学年×10分以上します。
- ② 自分で計画を立てて学習する習慣の定着化。・・・宿題以外にも、予習・復習、自主学習等、自分で計画を立てて学習します。
- ③ 授業とつながる家庭学習の工夫。

学びの支えづくりに努めます。

- 読書の習慣化・・・教科書以外の本をいつも手元に置き、進んで読書をする習慣づくり
- 書くことの習慣化・・・日記や振り返り帳等、書くことの習慣づくり
- 集中力の育成・・・ドリル等を活用した、集中力の育成
- 基本的生活習慣の育成・「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」
- 国語辞典の活用・・・国語辞典を使う習慣づくり

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

桐原小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 桐小スタンダードの確立（授業のロスタイルをなくします）を図ります。
 - (1) 授業改善…意思表示カードの活用（子どもの考える時間の確保・聞き上手の育成）
書く時間の確保
 - (2) 授業規律…場面や相手に応じた話し方・聞き方の指導
休み時間に入る前に次の授業の準備の徹底
2. 家庭学習パワーアップ週間とチョイスザメディア運動を充実させます。
 - (1) 定期的な生活点検→児童に意識化→個別指導→家庭学習の定着化
 - (2) 定期的な点検→メディアと接する時間を自分で律する子どもの育成→家庭との連携
3. 学力アップタイム（ガッテンプリント等を利用）を充実させます。
水曜日の朝15分間、木曜日放課後20分の国語の基礎学習や計算練習（複数指導3～5年）

[成果]

- 国語ではA問題B問題ともに選択式の回答では、県平均や全国平均を上回るものもあり、読む力はついてきている。
- 算数ではA問題では数値計算、B問題では図形の問題で全国平均との差が少なかったり、上回ったりしているものもあり、学力向上の取り組みや、デジタル教科書の導入の成果が出てきている。
- 児童質問紙の方では、「学校へ行くのは楽しい」と答えた児童が、県や全国平均よりも14～15%高く、授業改善と授業規律の確立をあわせて取り組んできた成果が出始めている。

[課題]

- ▲ 国語では、「話す・聞く」の領域での点数差が一番大きい。また、児童質問紙においても、「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話を組み立てて工夫しているか」の設問に対して、「当てはまる」と答えている児童が、全国平均の半分になっている。
- ▲ 算数では、記述式の問題に対しての正答率が県、全国と比較しても低くなってしまっており、明らかに自分の考えを表現する力に課題がある。

[今後の課題解決への重点的な取組]

1. 桐小スタンダードの確立（授業のロスタイルをなくします）を図ります。
 - (1) 授業改善…意思表示カードの活用（子どもの考える時間の確保・聞き上手の育成）
考え方をまとめる書く時間の確保・伝えることを意識した話し方の指導
 - (2) 授業規律…場面や相手に応じた話し方・聞き方の指導
休み時間に入る前に次の授業の準備の徹底
2. 家庭学習パワーアップ週間とチョイスザメディア運動を充実させます。
 - (3) 定期的な生活点検→児童に意識化→個別指導→家庭学習の定着化
 - (4) 定期的な点検→メディアと接する時間を自分で律する子どもの育成→家庭との連携
3. 学力アップタイム（ガッテンプリント等を利用）を充実させます。
水曜日の朝15分間、木曜日放課後20分の国語の基礎学習や計算練習（複数指導3～5年）
4. 「書く」指導と定期的な評価(200字・300字・400字の原稿用紙を教室に常備し活用)

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

桐原東小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 学び合い学習（アクティブラーニング）の推進

グループ学習（2人・3人・班単位）での意見交流を積極的に行い、コミュニケーション能力や課題解決能力の育成を図ります。

2. 習熟度別学習時間等の確保

コース選択による習熟度別学習（算数科を中心）を行い、児童がより意欲的に課題に取り組み、かつ大きな達成感を味わえる学習時間を創造します。

3. I C T機器の積極的活用

タブレットPC、電子黒板を効果的に活用し、楽しく、わかりやすい双方向型の授業を展開します。

[成果]

<学力調査から>

○国語（A・B）、算数（A・B）の平均正答率とともに全国の平均正答率を上回ることができた。

○昨年度より学力の二極化が解消されつつある。

<児童生徒質問紙の回答状況から>

○朝食、就寝時間等の生活リズムが安定している。

○自分で計画を立てて勉強する割合が高い。

○新聞を読んだり、ニュースを観るなど地域や社会での問題や出来事に关心がある割合が高い。

○ノート作りや問題の解き方を工夫するなど、前向きに学習に取り組めるようになってきた。

[課題]

<学力調査から>

▲目的や意図に応じて、自分の考えを書く点に課題がある。

▲示された情報をもとに条件に合うものを選択し、その理由を記述することについて課題がある。

<児童生徒質問紙の回答状況から>

▲テレビ・ビデオ視聴時間が長い。

▲ゲームをする時間、携帯・スマートフォンの使用時間は長短の二極化がみられる。

▲読書時間が少ない。

▲話し合い活動で、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えられない児童が多い。

▲感想や説明文を書くことが苦手な児童が多い。

[今後の課題解決への重点的な取組]

1. 学び合い学習の推進

発達段階に応じたグループ学習（2人・3人・班単位）での意見交流を積極的に行い、コミュニケーション能力や課題解決能力の育成を図ります。

2. 「説明する力」の育成

児童が自分の考えの根拠をはっきりさせ、相手にわかりやすく伝える機会を諸活動の中で設け、「説明する力」の育成を図ります。

3. I C T機器の積極的活用

タブレットPCを児童の意見交流のツールとして効果的に活用する双方向型授業を展開します。

4. コース選択制学習の実施

児童が自分でコースを選んで学習する方法を取り入れ、より意欲的に課題に取り組める学習時間を創造します。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

馬淵小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

- 授業の最初に「本時のめあて」を提示するとともに、授業の終わりには「本時の学習で学んだこと」を自分の言葉で記述する活動を積極的に取り入れます。また、授業の中に「書く」活動を意図的に取り入れます。
- 算数科において、T・T（教師二人体制）指導に加え、一つの学級を二つのグループに分けて学習する少人数指導を行い「個に応じる指導」を展開します。
- 「家庭学習の手引き」を作成し、家庭との連携のもと家庭学習の充実に努めます。
- 単元末のテストの際などに、授業の中で最も考えさせたい内容を活用した評価問題を加えるなど、評価の改善にも努めます。

[成果]

- 「本時のめあて」「本時の学習で学んだこと」を授業の形として取り入れ、学習意欲の高まりや見通す力が、徐々についてきた。
- 「書く活動」を積極的に取り入れたため、書くことに徐々に抵抗がなくなってきた。
- 地域の行事にたくさん参加し、家の手伝いもよくしている。

[課題]

- ▲基礎・基本である漢字の習得や、文字力・表現力をつけていくこと。
- ▲どのような問題でも、答えるのみを発言するのではなく、その答えを出したあるいは考えた根拠や思考の過程などを言葉にして、答えられるようにしていくこと。

[今後の課題解決への重点的な取組]

◎学習意欲の向上

☆授業のはじめに目標を示すとともに、学習の最後には、自分の言葉で学んだことをまとめ、振り返る活動を重視します。

☆子どもが主体的に学習できるよう、指導のあり方を工夫した授業改善をはかります。

◎基礎的・基本的な学習の積み上げ

☆読書活動の推進をはかります。

- ・朝読書、隙間読書、読み聞かせ、「おうちで読書」（家庭読書）等。

☆基礎的・基本的な学習を継続します。

- ・漢字や計算の繰り返し練習、辞書の活用等。

☆書く活動の充実をはかります。

- ・視写や短作文学習、日記や観察記録等。

☆少人数指導を行い、「個に応じる指導」を充実させます。

◎学び方を学ぶ学習

☆話し合い活動を取り入れ、課題解決学習に取り組みます。

- ・答えの根拠や思考の過程を言葉で表現する学習等。

◎学習習慣・学習規律の確立

☆家庭と連携し、家庭学習の習慣化をはかります。

☆話し方、聞き方、正しい姿勢、学習用具の準備など基本的な学習規律を確立します。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

北里小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 授業づくり（改善）
 - (1) 「めあてー学び合いー振り返り」を位置づけた授業を行います。
 - (2) 学んだ内容の活用を図り、言語活動を取り入れた問題解決型の授業を行います。
2. 学びの姿勢づくり
 - (1) 学習に向き合う規律（北里小学びのスタンダード）をもとに、言葉を大切にした指導を行います。
3. 確かな学力の向上
 - (1) 学習内容を深め定着を図り、学習の習慣化のための家庭学習の質・量を確保します。

※アンケート調査（評価）を実施しながら進捗状況等を確認し、よりよいものに改善します。

[成果]

<学力調査から>

- 平均正答率は、全国より下回っているが、国語や算数のA問題をはじめとして、全国との差が年々縮まっている。
- 国語の漢字の読み書きは、正答率が高い。

<児童質問紙の回答状況から>

- 「授業のねらいが明示されている」や「振り返る活動をよく行っている」と答えた児童や「話し合い活動をよく行っている」と答えた児童が、全国や県よりも高く、授業改善の取組が浸透してきている。

[課題]

<学力調査から>

- ▲国語は、図や表などを関連づけたりして的確に読み取る力が弱い。また条件に合わせたり、必要要件を押さえたりして適切に記述する力が弱い。
- ▲多様な思考を求められる課題等に対して、粘り強く取り組むことができず、無解答の児童が多い。
- ▲算数は、理由や根拠を筋道立てて、必要な要件を示しながら的確に記述する力が弱い。

<児童質問紙の回答状況から>

- ▲作文を書くことや自分の考えを説明したり、書いたりすることは難しいと答えた児童が多い。
- ▲テレビやビデオの視聴時間、ゲームをする時間が長い。読書に費やす時間は30分未満の児童が、約75%であり、読書時間が少ない。

[今後の課題解決への重点的な取組]

1. 授業づくり（改善）
 - (1) 「めあてー学び合いー振り返り」を位置づけた授業（特に言語活動を重視した問題解決学習の学習形態）を引き続き進めます。
ペア・グループ・全体学習での思考活動（学び合い）の工夫・充実を図ります。
条件に合わせて（字数・キーワードなど）書く作業を入れた授業を展開します。
2. 学びを支える姿勢づくり
 - (1) 授業規律（話し方・聞き方・ノート指導・板書の仕方、学習のめあてや振り返り）の定着を今後も進め、学びを支える姿勢づくりの確立を図ります。
 - (2) メディア（テレビ、ゲーム、ネット等）の利用時間を減らし、家庭読書等の推進・啓発をしています。
3. 確かな学力の向上
 - (1) 基礎基本的な学習の継続
 - (2) 既習内容の定着とともに、次時の授業に生かせる家庭学習を進めます。
 - (3) 読書活動、音読・暗唱活動を推進します。
 - (4) チャレンジタイム（3学期月曜6校時4・5・6年）による学力補充（複数体制による指導）

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

武佐小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 授業では

(1) 国語

①校内研究で取り組んでいる「書くこと」を重視した学習展開をより深めます。

(2) 算数

①分数や割合の問題を学力アップタイムや放課後学習会の時間に復習します。

(3) 規律

①鉛筆の持ち方、聞き方名人、話し方名人をより意識した指導を行います。

2. 家庭では

(1) 家庭学習がんばり週間を設け、家庭学習の時間を増やし、自主学習ノートを活用します。

[成果]

○読み書き計算などの基礎的な力は身についてきている。(学力アップやスマイル学習会の成果)

○漢字の読み書きなど、基礎的な力はついている。

○無回答率がこれまでよりも低くなり、時間いっぱい問題に取り組むことができるようになってきている。

○起床時刻や朝食の摂取率はたいへんよくなっている。

[課題]

▲自分の考えを書いたり発表したり、数学的な考え方をまとめたりすることに弱さが見られる。

▲テレビ視聴やゲームの時間、さらには携帯電話(ゲーム機能や SNS 等)を使用している時間が長いこと。

▲読書をする子としない子の二極化が見られること。

▲与えられなければ勉強しない(予習や復習、苦手な教科の勉強などほとんどしない)子が多いこと。

[今後の課題解決への重点的な取組]

1. 基本的生活習慣の確立

(1)基本的な生活習慣や学習習慣を身につけるため、さらに「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」運動に取り組み、学習課題としっかり向き合う姿勢作りにつなげます。

(遅刻等がないように家庭と連携して、きちんと学習に向き合えるようにします。)

2. 学力の定着

(1)集中して学習活動に取り組み、子どもたちが意欲的に学習したくなるような授業づくりを進めることで、基礎的基本的な学力の定着につなげていきます。

3. ルール作り

(1)学習環境を整え、学習の約束をみんなで意識しながら、話すこと・聞くこと、ノート指導を丁寧に進めていきます。

(2)授業の「めあて」「学習の見通し」「学習の過程」「振り返り」を意識した丁寧な授業づくりを今後も進めていきます。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

安土小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 活用力を育てる授業づくりをします。

(1) 一人ひとりが自分の考えをもつ場や、互いの考えを交流し高め合う場のある授業をつくります。

(2) グループ学習を効果的に取り入れ、多様な考え方を知る経験と、自分の考えを整理して話す機会を増やします。また、子ども自らが課題を解決できるよう導入や課題提示を工夫します。

2. 次につながる学習の振り返りをします。

(1) 漢字・計算のミニテストを繰り返し行うとともに、学習の中で自分が学んだことを整理し、発展的な学習課題を考える場をつくります。また、自己評価する習慣をつけます。

(2) 分析で明らかになった、学力課題に応じた問題や記述式の問題、実生活の場面でよく使われるような問題を評価テストに取り入れます。また、間違いに気づき修正しようとする力をつけるため、学習の振り返りの時間を必ずとります。

[成果]

<学力調査から>

○国語、算数ともにA問題はできており、正答数の高い層が多く、低い層が少ない。

○無回答率が低く、最後まであきらめずに答えようとしている。

○国語の『言語文化』や『読むこと』、算数の『数と計算』や『量と測定』の領域で成果が見られる。特に、漢字を読むことや計算の技能、記号等の理解に成果が見られる。

<児童質問紙の回答状況から>

○家で学校の宿題をしており、予習や復習、テスト勉強を自主学習する場合は、教科書を使っている。

○授業の中に自分の考えを発表する機会がある。

○最後まで話を聞いたり、ものごとをやり遂げたりすることができる。

○国語では、全ての各問題で最後まで解答を書こうと努力しており、算数では、解き方が分からぬときは諦めずにいろいろな方法を考えている。

[課題]

<学力調査から>

▲国語では分かったことを的確に書いたり、目的や意図に応じて自分の考えを書いたりすることに課題がみられる。

▲ローマ字の読み書きや百分率の理解に課題が見られる。

▲算数では、理由や意味、解釈したことや説明することを記述して答えること、また、学習したことを活用することに課題が見られる。

<児童質問紙の回答状況から>

▲家で、自分で計画を立てて学習することが少なく、学校の授業の予習や復習をすることが少ない。帰宅後や土、日曜日の勉強時間が短い。

▲ノートに学習の目標とまとめを書くことや授業の最後に学習内容をふり返る活動に重点を置いてきたが、児童の意識が高まっていない。

▲「国語や算数の勉強が好き」「国語や算数の授業の内容がよく分かる」と答える子が少ない。

▲感想文や説明文、考えた理由が分かる文章を書くことが難しい。

[今後の課題解決への重点的な取組]

◎授業やはげみタイムの中で、ガッテンプリント等を活用し、多様なスタイルの問題や実生活につながる問題を繰り返し解いていきます。ローマ字学習については、単語や文を書く時間を計画的にとり、定着を図ります。

◎国語科では、分かったことを的確に書いたり、目的や意図に応じて自分の考えを書いたりする学習を積み上げていきます。算数科では、理由や意味を記述したり、解釈したことや説明することを記述したりする学習を継続していきます。

◎子ども自らが課題を把握し、主体的に課題解決できる授業のために、課題提示や学習展開を工夫します。ペアやグループで自分の考えを交流し、学び合い、深め合う授業をめざします。

◎ノートに学習の目標とまとめを書くことや、学習内容をふり返って次の学習につなげる活動を継続していきます。学習したことを活用し、発展させるヒントを繰り返し授業や生活の場面で示していきます。

◎高学年では家で、自分で計画を立てて学習したり、学校の授業の予習や復習をしたりすることの大切さを帰りの会等で繰り返し働きかけ、家庭と連携しながら、学習習慣の定着を図っていきます。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

老蘇小学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 学力向上『三』づくりを行います。

- (1) 授業づくり
 - ・言語活動（読む・書く・話す・聞く）を取り入れ、課題解決学習の四段階（課題把握・自力解決・集団検討・よさの鑑賞）を通して、思考力・判断力・表現力の向上をめざした授業づくり。
 - ・体験・作業・実験観察等を通して日々の生活事象と関連した授業づくり。
- (2) 学習環境づくり
 - ・興味が持てる、振り返りができる、努力がわかる、教室や廊下の環境づくり。
- (3) 学習習慣づくり
 - ・学習ルールの定着や家庭学習の習慣、読書習慣、基本的な生活習慣づくり。

2. 学力補充を充実します。

- (1) つまずきの把握と学び直しを通したきめ細かな学力補充。
- (2) 放課後の時間を活用した学力補充。

[成果]

<学力調査から>

- 国語A Bを通じて「読む力」がついていることが認められる。
- 算数では、特に図形についての理解が定着しており、技能も身についている。また、基礎的計算力も高いレベルにある。
- <児童質問紙の回答状況から>
- 学習習慣や生活習慣が身についている児童の割合が年々上昇している。
- 自尊感情や規範意識が高い児童が多い。
- 学校生活を楽しく送っている児童の割合が高い。
- 全体として学習に対する関心意欲が高く、将来に向けて学習しようとしている割合が高い。

[課題]

<学力調査から>

- ▲国語の「話す力・聞く力」がまだ弱い傾向にある。特に相手の話の内容を整理したり意図を捉えたりすることに課題がある。

- ▲数学的に考えたり思考を表現したりすることに課題がある。

<児童質問紙の回答状況から>

- ▲「書く力」はついてきているが、書くことに抵抗を感じる意識が強い。
- ▲学習中に自分の考えを伝えたり、話し合う活動を行おうとする意識は高いものの、発表自体を苦手と感じる児童が多い。
- ▲算数に対して苦手意識を持つ児童がいる。

[今後の課題解決への重点的な取組]

1. 学力向上『三』づくりの内容を充実させて継続します。

- (1) 授業づくり
 - ・言語活動（読む・書く・話す・聞く）をさらに充実させ、課題解決学習の四段階（課題把握・自力解決・集団検討・よさの鑑賞）を通して、思考力・判断力・表現力の向上をめざした授業づくり。
 - ・個々の児童がもっている意欲を十分に生かす授業づくり
 - ・体験・作業・実験観察等を通して日々の生活事象と関連した授業づくり。
 - ・安土中学校区共通実践に基づき系統的に表現力をつけていく授業づくり
- (2) 学習環境づくり
 - ・興味が持てる、振り返りができる、努力がわかる、教室や廊下の環境づくり。
- (3) 学習習慣づくり
 - ・学習ルールの定着や家庭学習の習慣、読書習慣、基本的な生活習慣づくり。

2. 学力補充・発展を充実します。

- (1) つまずきの把握と学び直しを通したきめ細かな学力補充。
- (2) 放課後の時間を活用した学力補充。
- (3) 学習をさらに発展的に広げ深めていく学習支援。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

八幡中学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 授業改善に関して

(1) 12月9日に「学び確認テスト」を実施し、結果を分析し、授業改善に生かします。

(2) 校内研究を通じてタブレットPC（研究指定校）の有効利用を研究します。

1月21日に授業改善をテーマにして研究授業を実施し、大学教授から指導を受け、指導に生かします。

2. 評価のためのテストの見直しに関して

(1) 公立高校の入試問題を分析し、授業の中で具体的に取り上げます。また、学力テストの過去問題も授業の中で取り上げます。定期テストでも思考力・判断力・表現力を問う問題を取り入れています。

3. 教科学習以外の取組に関して

(1) 朝読書を充実させます。特に毎週金曜日に実施している「書く」取組を重視し、まとめて書く力をつけます。

4. 学習ボランティアとの連携に関して

(1) 書道の時間や長期休業中の補充学習等での学習支援を充実します。

(学校支援地域本部事業ボランティアさんとの連携を継続し、深めていきます。)

[成果]

- 滋賀県の平均正答率とほぼ同じか若干高めであった。
- 学校の規律を守り、落ち着いて授業に臨むことができている。
- 授業の中で、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会が増え、積極的に参加している。
- 地域を大切に考えている。
- テレビゲーム等の時間が例年より減少。

[課題]

- ▲家庭学習の時間が少ない。特に復習。
- ▲読書時間が少ない。図書館利用が少ない。
- ▲感想文や説明文を書くことを難しいと考えている生徒が多い傾向にある。

[今後の課題解決への重点的な取組]

1. 授業に関して

(1) 学力向上にむけて授業規律の重要性を指導していきます。

(2) 授業の中で互いに意見交換ができる集団づくりを図っていきます。

(3) 「学び確認テスト」にむけてガッテンプリント（学ぶ直しプリント）を積極的に活用します。

(4) 校内研究を通じてタブレットPC（研究指定校）の有効利用を研究します。

2. 評価のためのテストの見直しに関して

(1) 公立高校の入試問題を分析し、授業の中で具体的に取り上げます。また、学力テストの過去問題も授業の中で取り上げます。定期テストでも思考力・判断力・表現力を問う問題を取り入れています。

3. 教科学習以外の取組に関して

(1) 朝読書を充実させます。特に毎週金曜日に実施している「書く」取組を重視し、まとめて書く力をつけます。

(2) テスト前等の個別の補充学習を充実させていきます。

(3) 家庭学習の効果的な取組方法を考えいきます。（自主勉ノートの徹底）

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

八幡東中学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 授業改善の取組
 - (1) 学習集団づくりをもとにした話し合い活動や表現活動を充実させるとともに、授業目標を明確にし、指導と評価を一体化させたわかりやすい授業を行うよう努めます。
 - (2) 学習意欲を高めるための教材研究や研究授業、ICT機器の活用を積極的に行い、生徒が学習に意欲的に取り組めるようにします。
2. 学習支援の取組
 - (1) 早朝や放課後の時間を活用して補充学習を行い、生徒のニーズに応じた学習支援を行います。
 - (2) 少人数指導（数学科で実施している）などきめ細かな指導を充実します。
3. 授業規律の向上の取組
 - (1) 小学校と連携して授業規律の在り方や指導の仕方を検討し、学習環境を整えたり、学習姿勢を習慣づけたりし、学力を定着させるための取組をおこないます。
 - (2) 授業の流れのパターン化に取り組み、生徒が見通しを持って学習に取り組めるよう配慮します。

[成果]

＜学力調査から＞

- 国語・数学ともに標準化した点数が2年連続で上昇している。
- 国語では、状況や行動から心情を推し量ることができている。また、漢字の読み書きなど基礎的な学力は身についている。特に「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」問題の正答率は県平均より高い。
- 数学では、無解答率が昨年度より低下し、正答数分布は、低位の率が昨年度より低くなった。

＜生徒質問紙の回答状況から＞

- 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「学校の規則を守っている」生徒の割合が増えたり、「普段、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間」が3時間以上と回答する生徒の割合が減ったりするなど基本的な生活習慣が確立されてきている。
- 授業の中で目標を示し、最後に学習内容を振り返る活動が定着してきている。
- 授業で分からぬことがあったら、終わってから先生に聞く生徒の割合が国や県の平均と比べて高い。
- 「話し合う活動を通して、自分の考え方を深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒の割合が高い。

[課題]

＜学力調査から＞

▲国語では、漢字の書き取りはできるが、同音異義語には誤答が増える。また、目的や根拠、原因などについて、記述したり自分の考えを表現したりする力は不足している。

▲数学では、数学的な表現に関する理解が不足している。数学Aの関数と資料の活用、数学Bの図形の領域は、正答率が国や県の平均と比べ低い。また、数学的に説明するなど記述式の問題の正答率が低い。

＜生徒質問紙の回答状況から＞

▲授業の中で、自ら積極的に話し合い活動に取り組んでいると回答した生徒の割合は低い。

▲自分の考えを書いたり発表したりすることが苦手な生徒の割合が高い。

▲先生に「よいところを認めてもらっている」「授業で分からぬところを分かるまで教えてもらっている」と感じている生徒の割合が国や県の平均と比べ低い。

▲授業の中での話し合いで、「相手の意見を最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」と回答した生徒の割合が国や県の平均と比べ低い。

[今後の課題解決への重点的な取組]

- ⑩授業の最初に目標(めあて、ねらい)を示し、授業の終わりにふり返りやまとめを行う活動は学習内容の理解に成果が出てきているので、今後も続けていきます。
- ⑪各教科や道徳、学級活動などで話し合う機会を積極的に設け、相手の意見を最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えたり、自分の考えを書いたりする活動を増やし、自分の考えを説明したり書いたりすることに対する苦手意識を低減させるよう努めます。
- ⑫生徒へのきめ細かな指導のため、少人数指導や補充学習、教育相談などの充実を図ります。
- ⑬家庭生活や家庭学習の改善は成果が見られてきているので、引き続き保護者や地域に協力を働きかけます。
- ⑭学ぶ力や学習規律の向上のため、中学校区で連携して統一した取組を検討し実行していきます。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

八幡西中学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 授業全体のレベルの向上に向けて

- (1) 文章による表現力をつけるため、じっくり落ち着いて読んだり、書いたりする機会を大切にして書くことへの抵抗感をなくしていきます。
- (2) 授業の中での話し合い活動や発表の機会を作り、自分の考えを言葉で説明したり、人前で発表する機会を設けます。

2. 家庭学習の充実・質の向上に向けて

- (1) 生徒には家庭学習が学力の定着のために大切であることを指導し、保護者にも協力を求めていきます。
- (2) 計画的に家庭学習課題を出していく。そして点検と評価を確実に行います。

3. 授業規律の向上に向けて

- (1) 現在効果を上げているペル着指導を今後も継続してさらなる定着を図ります。
- (2) 授業態度の大切さを繰り返し訴えていきます。学校だより・学年通信等で理解と協力を求めていきます。

[成果]

- 朝読書の習慣がつき、10分という短い時間ではあるが、本と触れ合う時間を確保できました。
- 各教科で計画的に家庭学習課題を出し、その評価を行うことができました。
- 授業開始のチャイムの1分前に音楽を流すことを生活委員会で提案しました。その結果、多くの生徒が余裕をもってペル着できるようになりました。
- 今年度から図書室の開室を週2回から週5回に増やしました。その結果、利用者数が前年度の3倍、貸出冊数が前年度の6倍になりました。

[課題]

- ▲朝読書の時間以外は本と触れ合っていない生徒がほとんどで、図書室利用の啓発が強く求められます。
- ▲家庭学習課題の量が教科によって偏りがあります。また、内容によっては途中であきらめてしまう生徒もいました。すべての生徒が自力で解ける難易度の課題を設定する必要があります。
- ▲体はペル着できっていても、心は授業に切り替わっていない生徒が多く、休み時間と授業の区別をつけられるように授業の導入に工夫が必要です。
- ▲グループ学習の機会の不十分さが、生徒の認識として表していました。

[今後の課題解決への重点的な取組]

- 授業の最初に短時間で集中できる課題に取り組み、休み時間と授業の切り替えをして、落ち着いた雰囲気で授業をスタートさせます。
- “流れ”“めあて”“ふり返り”的カードを黒板の端に毎時間貼り、全学級、全教科で統一した板書、見通しをもった授業を実践します。
- ペアやグループ学習を積極的に取り入れ、主体的に学び合う機会を多くつくり、教師も生徒も声をかけ合いながら粘り強く授業に臨めるように工夫します。
- 図書室を積極的に開室し、利用者数を前年度よりも20%増、貸出冊数を前年度よりも20%増にします。
- 個別支援のあり方を見直します。放課後の補充学習や、定期テスト前の質問教室では、地域ボランティアを募って多くの生徒が質問できる環境を整えます。
- 携帯電話・インターネットの購入・使用について、生徒はもちろん、保護者や地域対象に研修や啓発を進めていきます。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

安土中学校

[これまでの課題解決への重点的な取組]

1. 学習意欲の喚起

- (1) 毎時間の授業で学習の目標（めあて・ねらい）を明示し、授業の終わりにまとめと振り返りを行うという授業形態を確立し、学習内容をしっかりと確認します。
- (2) 学習内容と日常生活を結びつけるために、日常生活に即した応用問題を工夫します。
- (3) 学習シラバス【年間の学習指導計画】を導入し、授業はもとより家庭と連携を図りながら家庭学習の強化を行い、学習習慣の定着に努めます。

2. 思考力・判断力・表現力の育成

- (1) グループワークやペアーウORKを用い、話し合い活動を通じて、「書く・まとめる・発表する」機会を積極的に設け、コミュニケーション能力の育成を図り、言語活動の充実に努めます。
- (2) 各教科で基礎的・基本的な知識をもとに活用力を高めるために、与えられた課題に対して筋道を立てながら自分で考え、判断し、まとめていくという課題解決的な学習を多く取り入れていきます。また、定期テストなどでも知識や技能の活用、課題解決的な応用問題を重視していきます。

[成果]

〈学力調査から〉

- 平成27年度と比較して、全国平均正答率との差が数学Bで2ポイント程度改善した。
- 全国との差が国語B以外で、4ポイント以内に縮まっている。

〈生徒質問紙の回答状況から〉

- 国語の授業で学習したことが将来、社会に出たときに役立つ、国語の勉強が大切だと思っている生徒が、全国と比較して20ポイント程度高い。また、数学の勉強は大切だと思っている生徒も10ポイント程度高く、学ぶ意義を感じて学習に取り組んでいる様子が見られる。

[課題]

〈学力調査から〉

- ▲全国と比較して、国語の記述式問題で正答率が低く、目的に応じて文章を要約するところに、課題が見られる。
- ▲機械的な計算などはできるが、数学的用語の意味理解の部分に課題が見られる。

〈生徒質問紙の回答状況から〉

- ▲「ノートに学習の目標やまとめを書いていなかった」、「数学の授業で問題の解き方や考え方方がわかるようにノートに書いていなかった」と答えている生徒が、全国と比較して20ポイント程度多くいる。
- ▲「生徒の間で話し合う活動をよく行っていなかった」と答える生徒が全国と比較して20ポイント程度多くいる。

[今後の課題解決への重点的な取組]

- ◎これまでから、毎時間の授業で学習の目標（めあて・ねらい）を明示し、授業の終わりにまとめと振り返りを行うという授業形態を確立するために取り組んできており、着実に成果は出てきています。今後、授業と家庭学習を効果的につなげるために、ノート指導に取り組みます。
- ◎授業のねらいを達成するために、効果的な話し合い活動などアクティブラーニングを活用した効果的な取組を考察します。